

スーチョワンバーラルの効果的な捕獲及び保定について

碓 捺名

(横浜市立金沢動物園)

金沢動物園で飼育しているスーチョワンバーラルは毎月削蹄を行っており、その都度捕獲及び保定が必要である。従来は、人と動物が同じ空間に入り抑え込む方法を用いていたが、本種は跳躍力に優れた動物であり、壁や天井を蹴って人の頭上高く逃げ回るため、双方の怪我のリスクが高いことが課題であった。

そのため、現在は捕獲・保定の際に柵の外から角にロープを掛ける方法を用いている。使用する道具はロープと棒で、ロープは5m程度のものを使用している。人員は、1～2名程度で行う。手順としては、引き解け結びで作ったロープの輪を棒に引っ掛け、それを寝室扉の開口部より動物のいる寝室内へ挿し込み、角にロープを掛けて捕獲する。これにより、人と動物が同じ空間に入ることがなくなり、双方の怪我のリスクを減少させることが出来た。また、捕獲後はロープで角を柵に固定するため逃走の恐れも無くなり、安定した状態で削蹄や治療を実施することが出来る。さらに、従来の方法と比較し腕力をあまり必要としないため、力に自信のない人や経験の浅い人でも技術を習得すれば安全に捕獲することが可能である。

今後の人材育成にあたっては、書面及び動画で資料を保存し安定した技術継承を図る。また、担当者や代番者不在時の治療など、緊急時にも対応できる人材を増やす必要があると考える。毎月の削蹄時に実践し、2～3か月での習得を目指す。